

## 足立区都市交通マスタープラン検討委員会会議録

会 議 名	第1回足立区都市交通マスタープラン検討委員会		
開催年月日	平成21年9月4日		
開催場所	足立区役所 南館8階 特別会議室		
開催時間	午後2時30分開会～午後4時00分閉会		
出欠状況	委員現在数 31名 出席委員数 31名(うち、代理出席5名) 欠席委員数 0名		
出席者	内山 久雄	吉田 樹	武石 哲夫
※括弧内は代理出席者	板谷 和也	鈴木 そのみ	松原 秀壽
	峯岸 絢子	宮脇 睦	結城 健
	五十嵐 康夫(春原 和洋)	小野 恭一(吉野 浩一郎)	宮本 哲
	戸上 学	中村 正(久保木 清)	宮崎 裕
	茂手木 泰幸	相川 準	名倉 豊
	大井 英明	花田 健司	古賀 裕之
	森 大治郎(宮丸 秀安)	柏木 賢二	山口 満
	渡邊 稔	林 幹生	青木 光夫
	有賀 純三	定野 司(川口 弘)	宇賀 潔
	石川 義夫		
事務局	土木部副参事(交通・道路計画) 交通計画担当、道路計画担当 出席職員 土木部副参事(交通・道路計画) 土田 浩己 土木部副参事(交通・道路計画) 交通計画担当係長 浅古 義明 土木部副参事(交通・道路計画) 道路計画担当係長 高浦 隆嗣 土木部副参事(交通・道路計画) 交通計画担当 菅原 和幸 土木部副参事(交通・道路計画) 道路計画担当 笠原 晋介		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスタープラン策定の経緯と目的</li> <li>・マスタープラン策定のイメージと全体スケジュール</li> <li>・パーソントリップ補完調査等の実施</li> <li>・質疑その他</li> </ul>		

# 第1回足立区都市交通マスタープラン検討委員会

## 議 事 要 旨

### 1. 開催概要

〈日時〉 平成21年9月4日(金) 14:30～

〈場所〉 足立区役所 南館8階 特別会議室

### 2. 出席者

別紙参照

### 3. 議事次第

- 1 委員長あいさつ
- 2 検討委員会委員の紹介
- 3 マスタープラン策定の経緯と目的
- 4 マスタープラン策定のイメージと全体スケジュール
- 5 パーソントリップ補完調査等の実施
- 6 質疑
- 7 その他

### 4. 資料

○別紙資料-1

○別紙資料-2

## 5. 議事要旨

### (1) 委員長あいさつ

事務局の開会の辞ののち、検討委員会委員長より今回のマスタープラン策定に対する期待等を中心に挨拶をいただいた。

### (2) 検討委員会委員の紹介

事務局より検討委員会名簿を基に、検討委員会委員の紹介を行った。

### (3) マスタープラン策定の経緯と目的

事務局より今回のマスタープラン策定に至った経緯と策定の目的を説明した。

### (4) マスタープラン策定のイメージと全体スケジュール

事務局より、別紙資料-1を基に、都市交通マスタープランの考え方、作業フロー、検討体制、都市交通マスタープランの方向性(案)などを説明した。

### (5) パーソントリップ補完調査等の実施

事務局より、別紙資料-2を基に、PT補完調査(平日・休日)、PT補完調査(バス乗込調査・特定施設調査)、区民意識調査からなる、区民の交通に関する実態や意識を把握するための調査内容を説明した。

### (6) 質疑

以上の説明ののち、委員長の進行により、以下のような質疑が行われた。

#### <副委員長>

- 調査全体の力点の置き方が「はるかぜ」に偏りすぎていないか。足立区は、日暮里・舎人ライナーを含めて南北方向は鉄道路線が整備されているものの、東西方向は路線バスに頼らざるを得ない状況であり、東西方向の軸となる幹線的な交通サービスが重要となる。「はるかぜ」に偏ることなく、区外との幹線サービスのあり方にも着目する必要がある。

#### <事務局>

- 「はるかぜ」は、採算性の悪い4路線を対象に現状を把握する予定であり、路線バスのあり方も、パーソントリップ調査結果を活用した検討を行うなど、東西・南北の基幹軸について検討していく。

#### <委員>

- 区民委員として何が期待されているのか。

#### <事務局>

- 区内の交通実態について、状況を良く理解されている利用者の立場で不満な点や改善要望などご意見を伺い、マスタープランに反映していくことを考えている。

#### <委員長>

- 区民委員の意見とともに、様々な調査を実施して区内の交通実態を把握することが必要

である。調査としても、発地調査（パーソントリップ調査）、着地調査（特定施設調査）、移動中調査（はるかぜ調査）など予定している。特に、「はるかぜ」については、赤字路線だから即廃止というのではなく、将来も見据えて「はるかぜ」をどうしていくべきか（方向性）を検討していくことも当委員会のテーマである。

<委員>

- 区内の都市計画道路の整備率は7割程度と高いが、20年後を想定したマスタープランの中で道路整備も計画対象とするのか。
- 20年後のあり方と「はるかぜ」の現状の黒字赤字はどのように扱われるのか。

<事務局>

- 都市計画道路については、現在、前期整備路線として平成27年を目標に整備が進められている。平成27年以降の整備優先順位付けを行う際の参考としてマスタープランに盛り込んでいきたい。
- 「はるかぜ」は短期的に赤字路線への対応を検討する必要がある。20年後など長期的には人口減少・高齢化社会に見据えたバス路線の再編を検討する必要がある。

<委員>

- 商工会では観光誘致の取り組みも行っている。観光政策や観光に関連する交通施策をマスタープランに盛り込むことを考えているか。

<事務局>

- 観光時期に合わせた臨時的なバス路線の導入は既に行っている。また、区民から観光時期のバス路線の要望もあることから、観光面からのバス路線のあり方など検討することも考えている。

<委員>

- 西新井大師への日暮里・舎人ライナーからの誘導についても検討が必要である。

<事務局>

- 今年度になって日暮里・舎人ライナーを利用して西新井大師に行かれる方も多くなっていることから、サイン計画についても議論したいと考えている。

<委員長>

- まずは本体のマスタープランの議論を中心に行い、観光やそれに伴うサイン計画など必要に応じて議論し、反映させていった方が良い。

<委員>

- マスタープランの最終成果は、道路や公共交通など個別具体の施策が即地的に表現されたものとなるのか。また、マスタープランに記載された事項には履行義務があるのか。
- 交通安全についてはマスタープランの中で取り扱うのか。

<事務局>

- 高齢者の移動円滑化の観点から、現状における高齢者事故の分析を行うことを考えており、計画に盛り込んでいきたい。
- マスタープランの成果である施策体系については、公共交通の充実など様々な柱立てを

行い、その中をハード・ソフトなどの観点で仕分けし、概ねの目標年次も定めて整理することを想定している。その中には、例えば高齢者事故への啓発活動などのソフト面の施策も盛り込むことを考えている。

→ マスタープランに盛り込まれた施策の拘束力については、計画のP D C Aサイクルを回していく中で、誰がどの様にチェックして行くかも含めて、当委員会で議論していきたい。

#### <委員長>

- マスタープランについては、策定経緯も含め区民の理解を得ることが重要である。そのためにも、GIS等を用いた分かりやすい図などをホームページ等に掲載することも検討して欲しい。
- マスタープランの実現には、行政のみならず民間事業者の協力を得ることが必要である。足立区は従来から都市交通懇話会を通じて民間事業者との意見交換を深めてきていることから、大きな意味でマスタープランに対する理解は得られると考えている。

#### <副委員長>

- 公共交通についてみると、従来の一般的な交通計画では既存道路にバス路線をどのように乗せるかに終始している。足立区の場合20年後という長期で交通計画を捉えることから、公共交通軸の必要を検討し、これに合わせた道路整備の計画を立案するなど、公共交通の計画と走行空間としての道路の計画の方向性を合わせて検討することが出来る。その際には、時間を要する施策や短期的に対応可能な施策などの仕分けが必要と感じている。

#### <委員長>

- 20年経った時には高齢社会のピークを迎えることもあり、高齢者への対応が重要になってくる。高齢化社会を念頭に置き、高齢者モビリティをどのように確保するか。「はるかぜ」利用者には高齢者も多いと予想される中で、高齢者も含めた移動制約者のモビリティの現状を把握する観点から重要な調査と思う。

#### <委員>

- 公共交通には「はるかぜ」以外に路線バスもある。区内の公共交通網を検討する際には、路線バスも含めて検討して欲しい。

#### <事務局>

→ 事前に委員の方から、「路線バス及び結節点での情報提供は検討対象に含まれるのか」との意見を頂いており、両方ともマスタープランの中で検討することとしている。

#### <委員>

- 特定施設調査として高齢者に着目した調査を実施するとしているが、子育て支援の観点から保育所や子育てサロンなどでも調査を行って欲しい。

#### <事務局>

→ 子育て施設の位置等を調べ、バスの路線のあり方に反映していきたい。

#### <委員>

- 「はるかぜ」と子育て施設の関係では、東和保健センターは非常に交通が不便なことから直接乗り入れの区民要望もある。マスタープランの中で反映させていければ良いと思う。

<副委員長>

- 子育ての方や高齢者の方について、バス停までの徒歩アクセス時のバリア、あるいは車内に乗っている時に騒ぎ出してしまった際など他の人の目というバリアなど、様々なバリアに対して「はるかぜ」だけで全て対応することは出来ない。その場合は、「はるかぜ」より、もう少し小回りが利く交通サービスが必要になってくる可能性がある。現状には無い交通システムの実態はパーソントリップ調査では把握出来ない。今後、議論していく中で新たな交通システムのニーズについて、補完的に検討していく必要があると考えている。

<委員長>

- マスタープランの検討に際して、様々なバリアに目を配らなければならないというのは事実であり、関連する調査も必要に応じてやらざるを得ないのは確かだと思う。ただし、初年度は区内の現状を把握する調査をしっかりと行い、計画の骨格について検討を進め、大枠が出来上がったうえで、必要に応じて対応することとしたい。重要性は認識しており、出来ればどこかで関連する調査も実施したいと思っている。

<副委員長>

- 例えば区民の方々からどのようなサービスがあれば便利だと思うか把握する必要がある。例えば、自動車を保有していなくても幼稚園の送迎に電気自動車のカーシェアリングがあれば良いなど。3年間マスタープランを検討していくなかで、様々なアイデアが出ると思うので、モデル地域を設定し実験的に実施するなど、実現に向けた環境を整備していければ良いと考えている。

(7) その他

以上で質疑を終えた後、委員長より進行が事務局に戻され、事務局より次回開催時期など、その他の連絡を行った。

<事務局>

- 次回の委員会の開催は、平成22年1月の下旬頃を予定している。
- 今回の会議録については、後日区のホームページ等に公表していきたい。
- パersoントリップ調査の結果についても、まとまった段階で広報紙やホームページ等で公表していきたい。

以上